

令和元年5月10日 北海道酪農協会
平成31年度酪農講演会

世界の食料事情とわが国

～ 畜産の現状と課題に向けた取組～

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 佐々木 勝憲

日本は最近、畜産物の輸入が上位に

わが国の輸入農産品の上位10品目の推移(金額ベース)

	昭和35年	55年	平成12年	22年	27年
1位	小麦	トウモロコシ	豚肉	豚肉	豚肉
2位	大豆	大豆	たばこ	たばこ	たばこ
3位	粗糖	小麦	牛肉	トウモロコシ	トウモロコシ
4位	トウモロコシ	粗糖	生鮮・乾燥果実	生鮮・乾燥果実	牛肉
5位	牛脂	コーヒー豆	トウモロコシ	牛肉	生鮮・乾燥果実
6位	米	グレーンソルガム	アルコール飲料	アルコール飲料	アルコール飲料
7位	コブラ	牛肉	大豆	大豆	鶏肉調製品
8位	たばこ	豚肉	小麦	小麦	大豆
9位	乾燥ミルク	たばこ	生鮮野菜	鶏肉調製品	小麦
10位	ふすま	アルコール飲料	鶏肉	コーヒー豆	冷凍野菜

高い輸入依存

(%)
120

主要品目別のわが国の供給量に占める
輸入量の割合(平成27年)

100

80

60

40

20

0

大豆

トウモロコシ

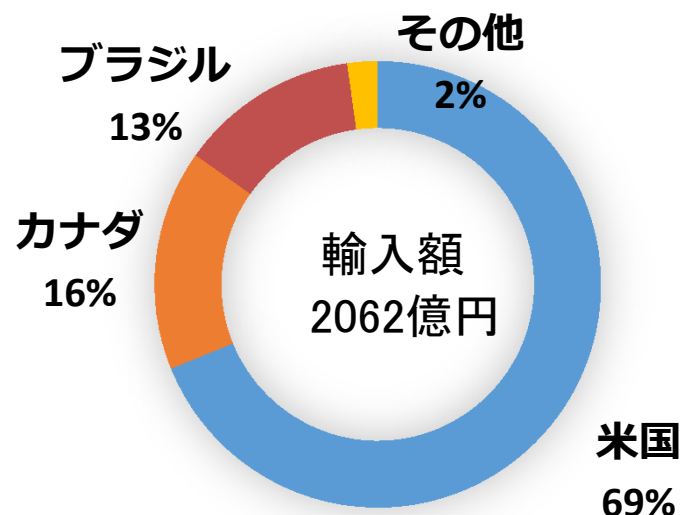
牛肉

豚肉

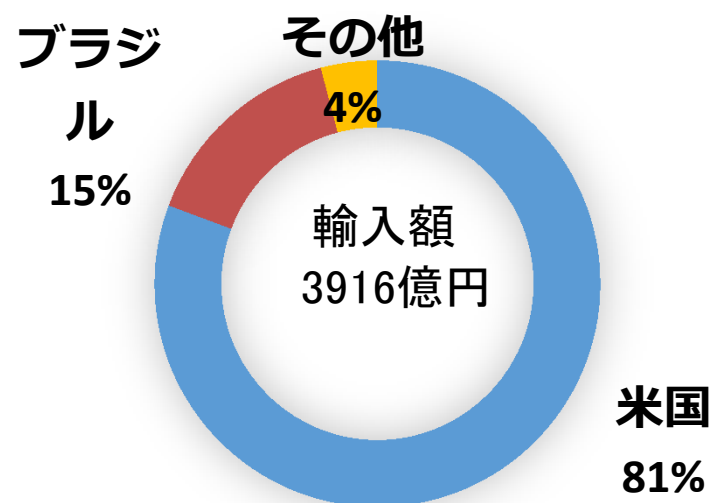
- ・飼料は外国産に高依存
- ・食肉の約半分は外国産

わが国の主要農産物の国別輸入割合（平成27年）

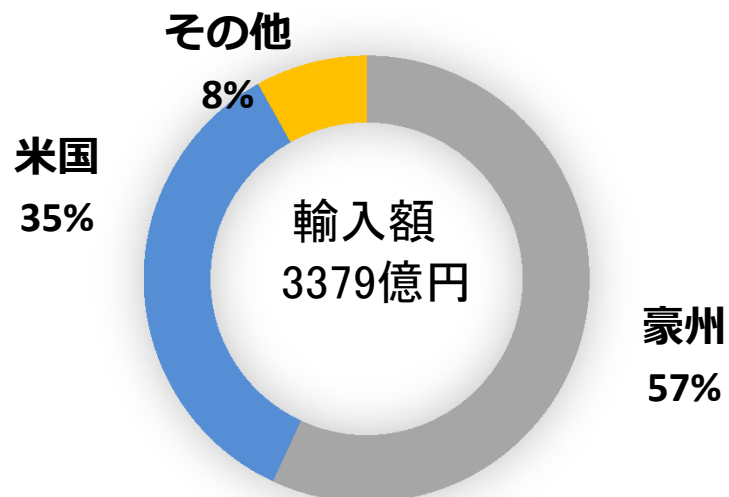
大豆



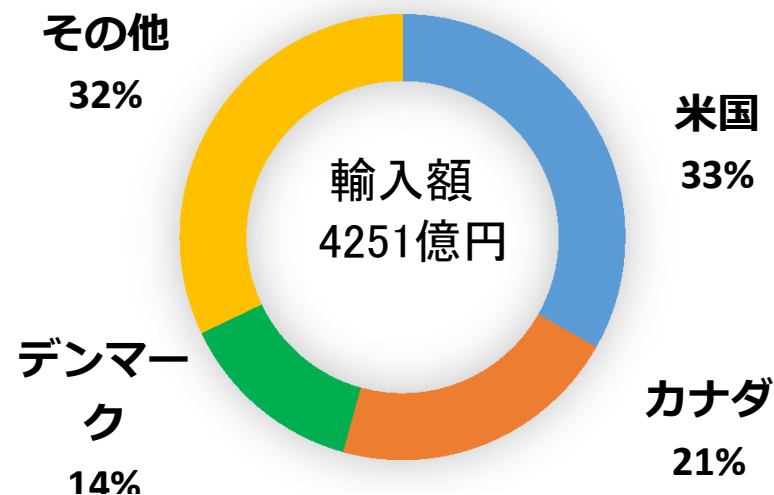
トウモロコシ



牛肉

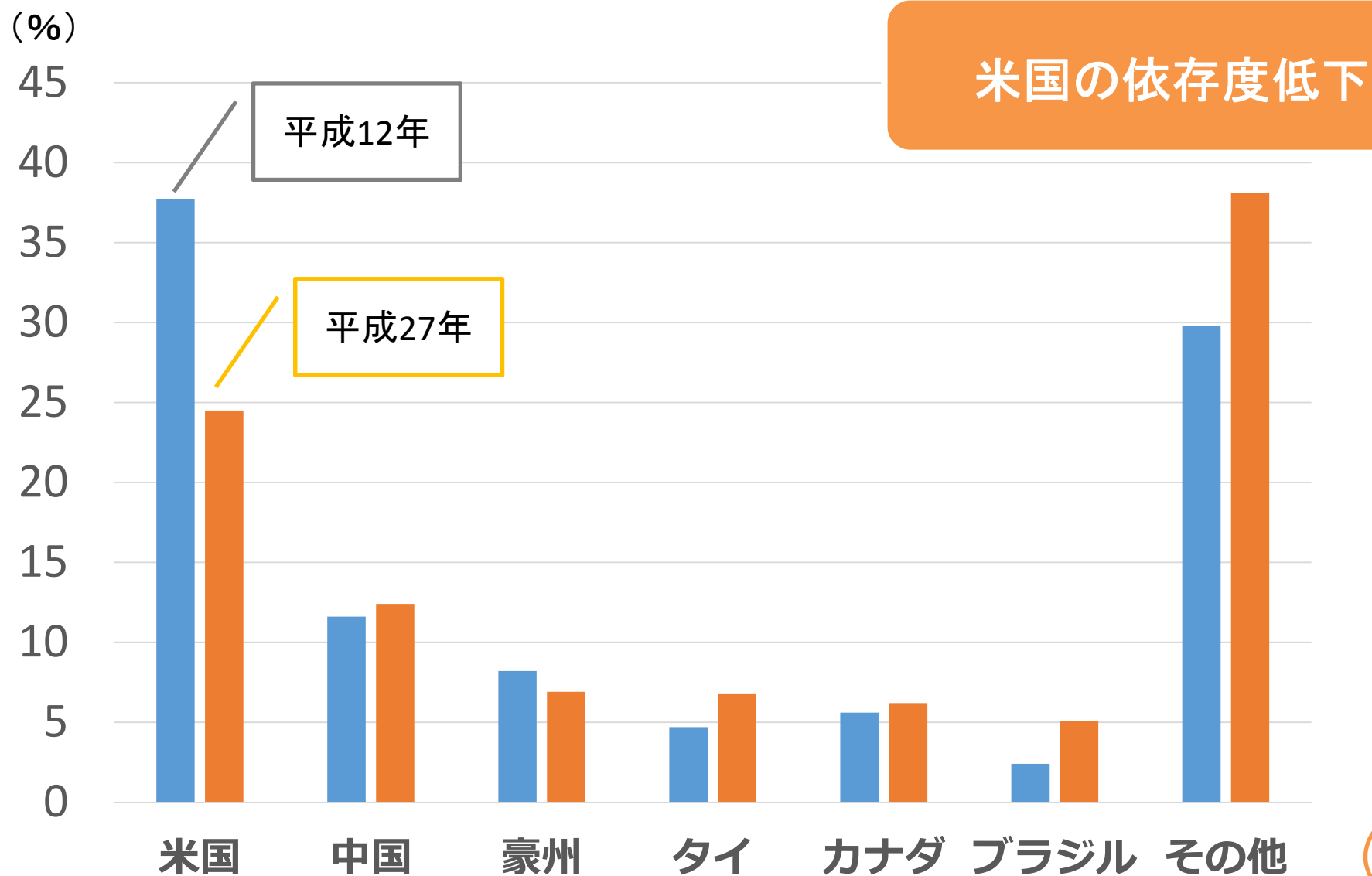


豚肉



輸入先国の多角化が進む

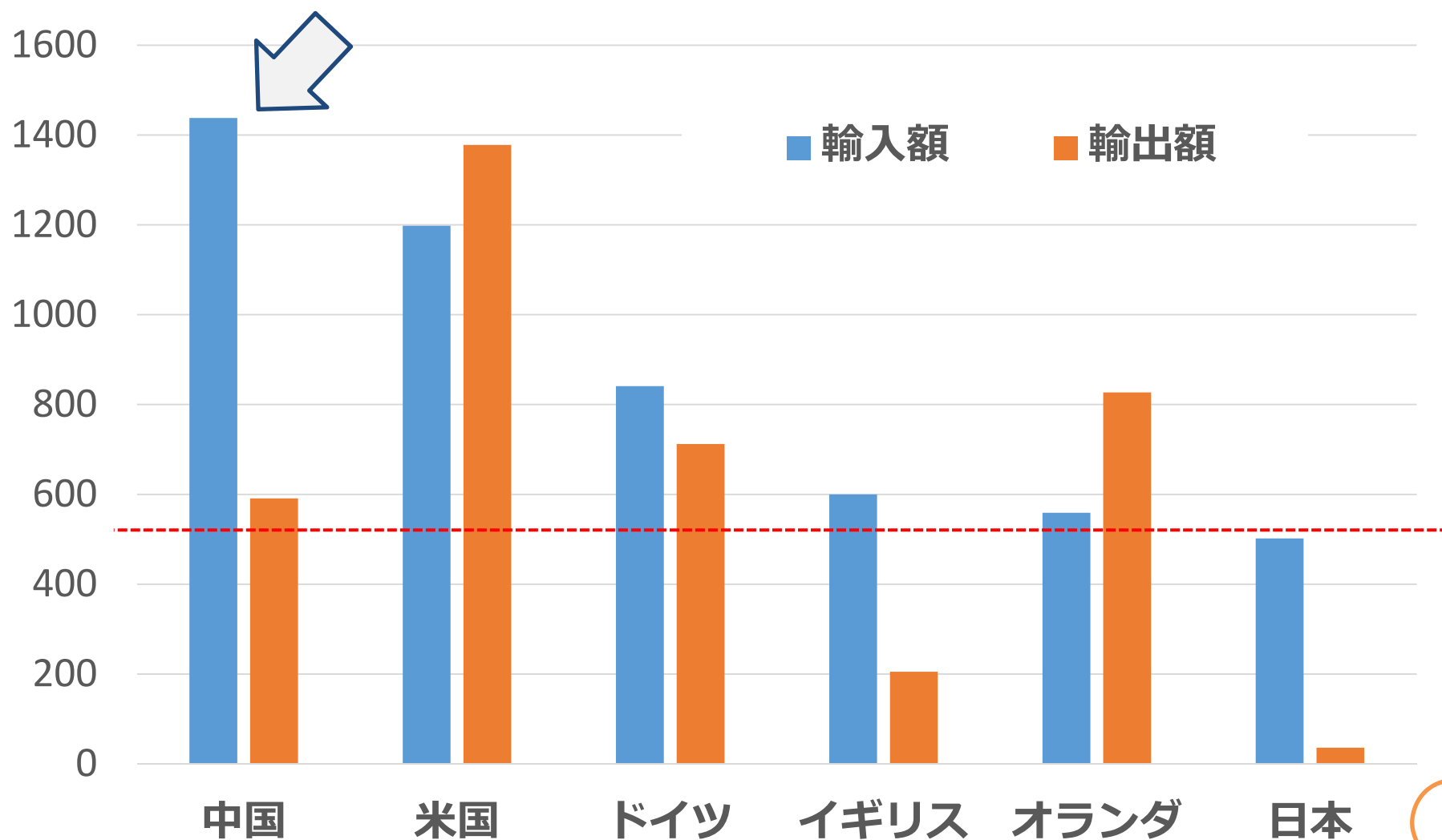
わが国の輸入先国別農産品輸入割合の推移



農産物の輸入は中国が最も多い

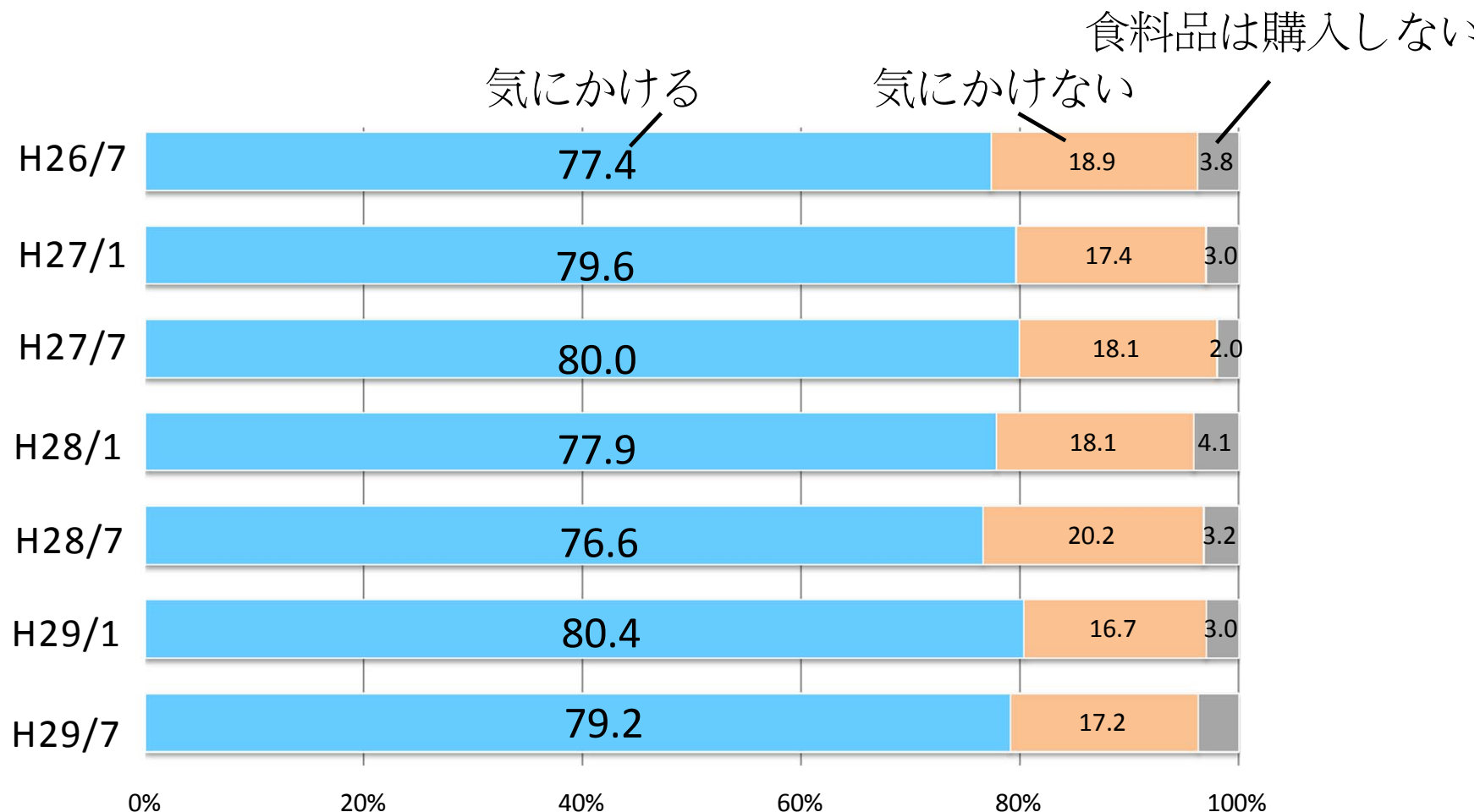
輸入農産物輸入額の上位国の輸入額・輸出額(平成27年)

(億ドル)



食料品を購入するとき、国産かどうか気にするか

日本政策金融公庫調査(平成29年9月)



- 国産のイメージは、安全、価格が高い、おいしい。
- 外国産のイメージは、安全性に問題、価格が安い。



安全・安心の、国内産ハーブ鶏を使用。

ケンタッキーの「オリジナルチキン」に使用する「国内産ハーブ鶏」は、安全衛生管理の厳しい基準をクリアした認定農場である「KFC登録飼育農場」で育てられています。

与えるエサはハーブ原料を含んだもので、脂肪や鶏肉独特のくさみが少ないおいしい鶏に育ちます。さらに肉質がやわらかい生後40日前後の若鶏を使用しています。

マクドナルドのメニューには、主に国産のレタスが使用されています。そこで今回の「食材の道のり」では、レタスの生産に関わる長野県の農家と加工工場を訪ねました。その栽培方法や品質管理、おいしさへのこだわりをご紹介します。

見える、マクドナルド品質

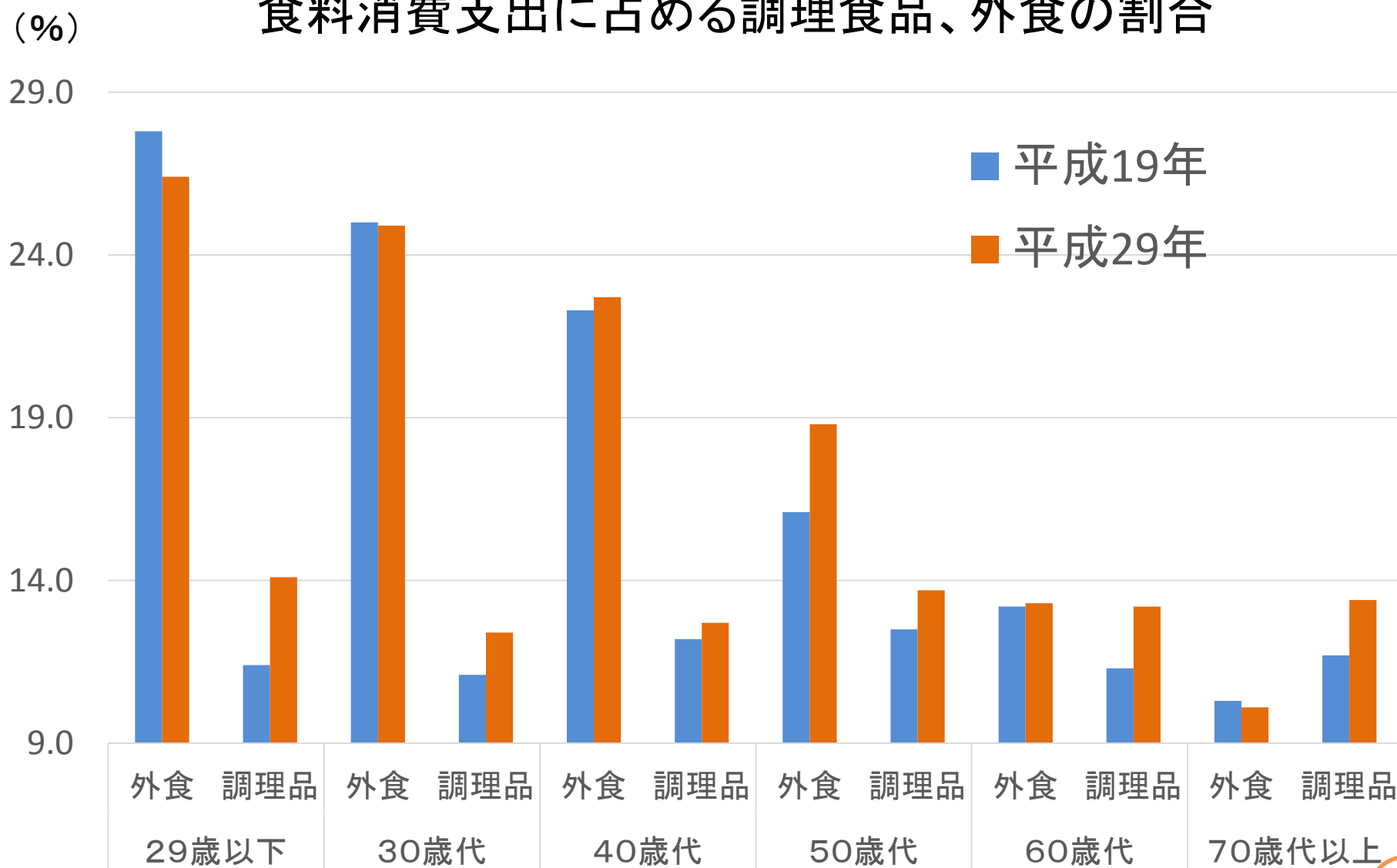
**私たちが
つくっています。**



長野県 小諸市

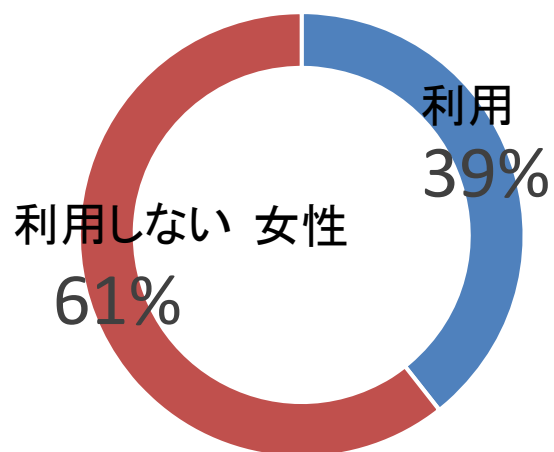
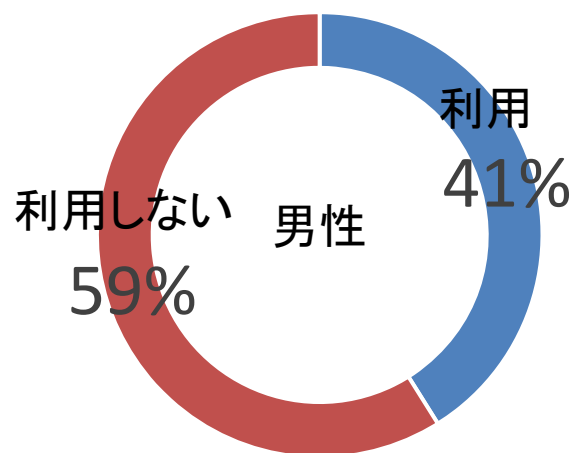
全世代で、調理食品の利用割合が高まる

食料消費支出に占める調理食品、外食の割合



持ち帰り弁当・惣菜、4割は利用

持ち帰り弁当・惣菜を週1回以上
利用している者の割合



外食・持ち帰り弁当・惣菜を定期的に
利用している者の割合

(%)

60

50

40

30

20

10

0

20歳代

30歳代

40歳代

50歳代

60歳代

70歳以上

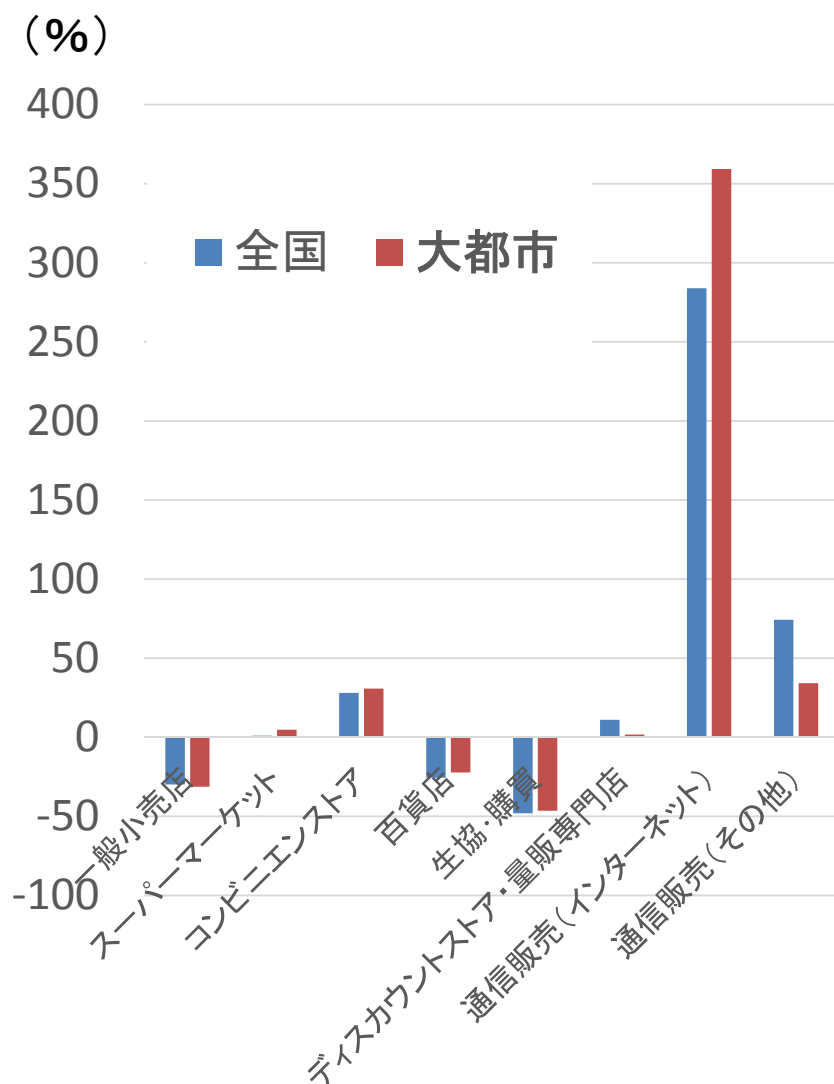
■ 男性
■ 女性

1

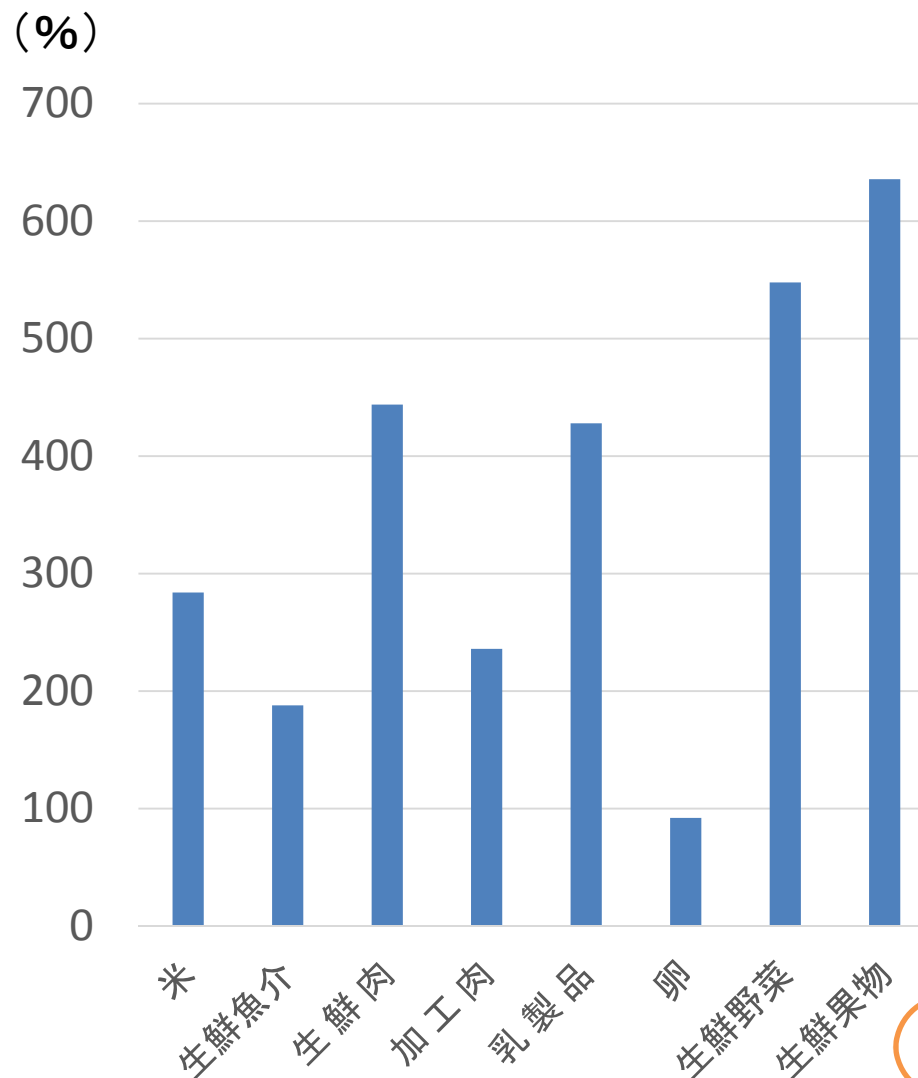
9

購買先の変化

食料の購入先別の支出額の増減率
(平成16(2004)と平成26(2014)年の比較)



ネット通販による品目別支出額の増減率
(平成16(2004)と平成26(2014)年の比較)

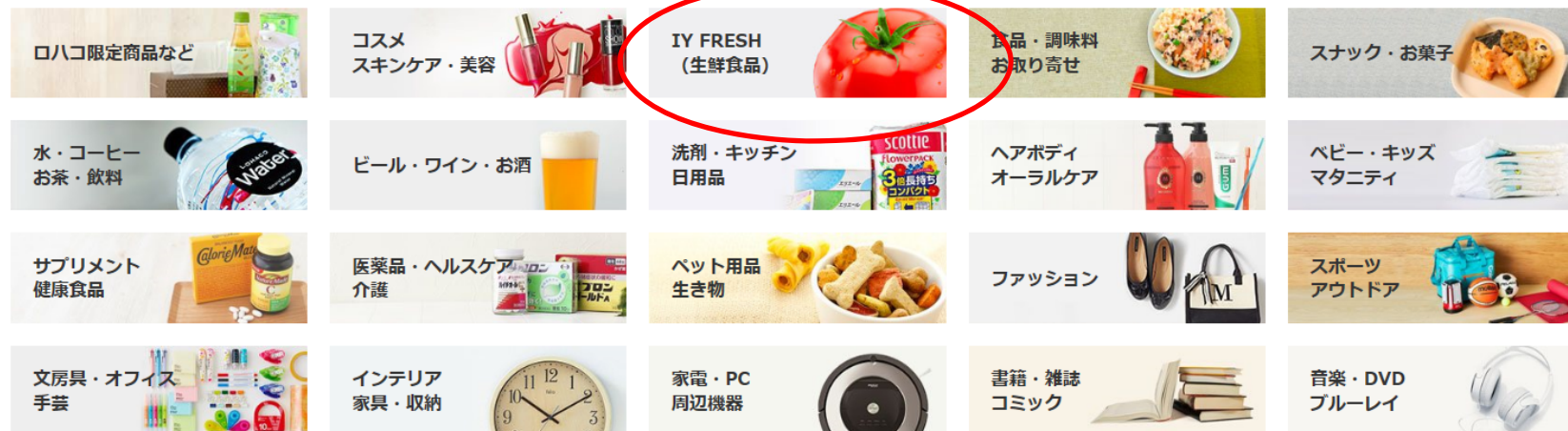


LOHACO 通販サイトより



カテゴリから探す

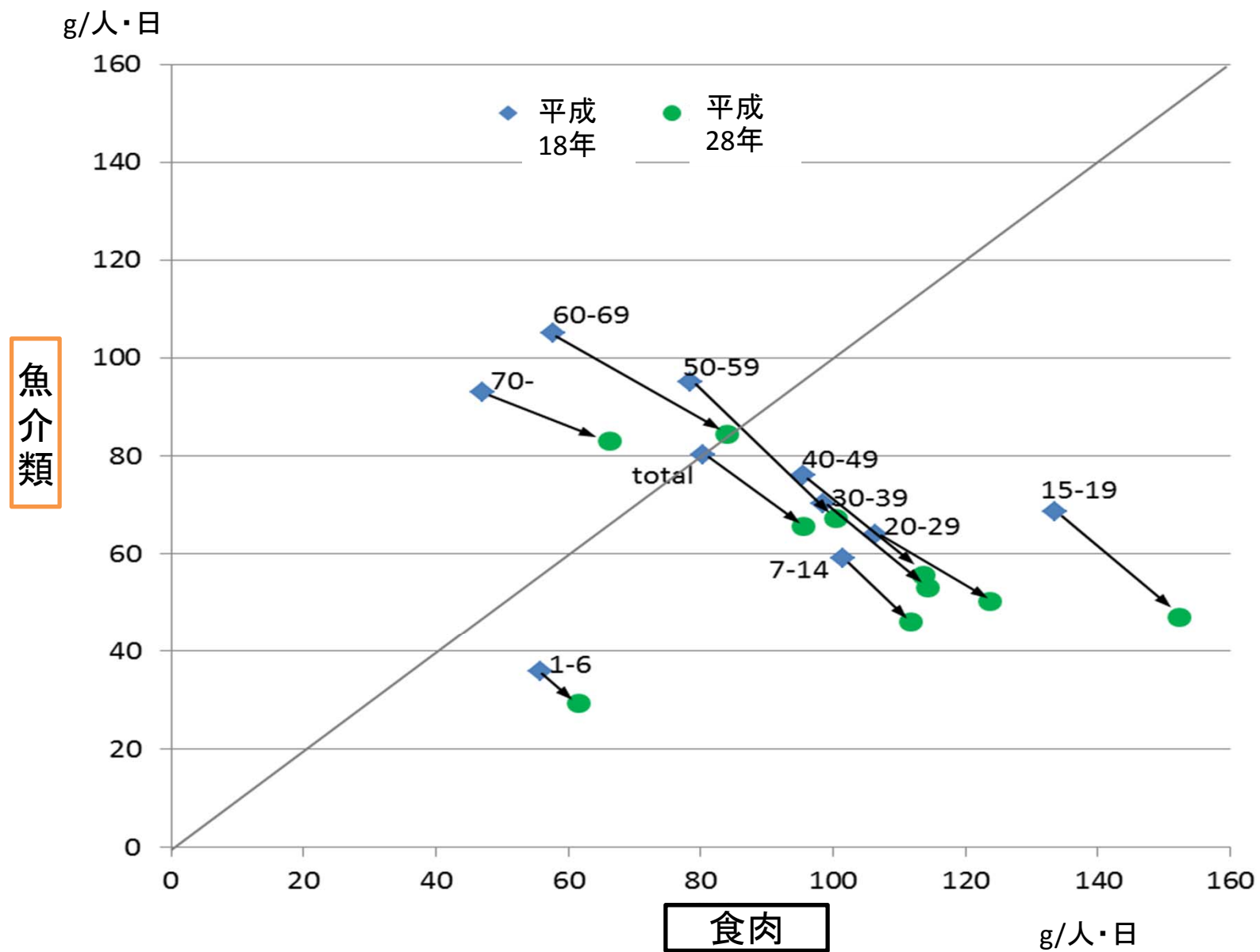
カテゴリ



人気のカテゴリ



消費量の動向の変化



- ☆ 農水省の調査では、9割以上が国産原料の使用に魅力と回答。国産志向は加工食品・外食においても高まる。
- ☆ 高齢者世帯における調理食品の利用増加や共働き世帯の増加など、外食産業・中食産業の割合は増加と見込まれる。
- ☆ ネット通販による食料の支出額はこの10年間で約4倍に拡大。乳製品でも大きな伸び。日本政策金融公庫の調べでは、60歳以下の3割、70歳代の2割が「購入したい」と利用の意向を示す。

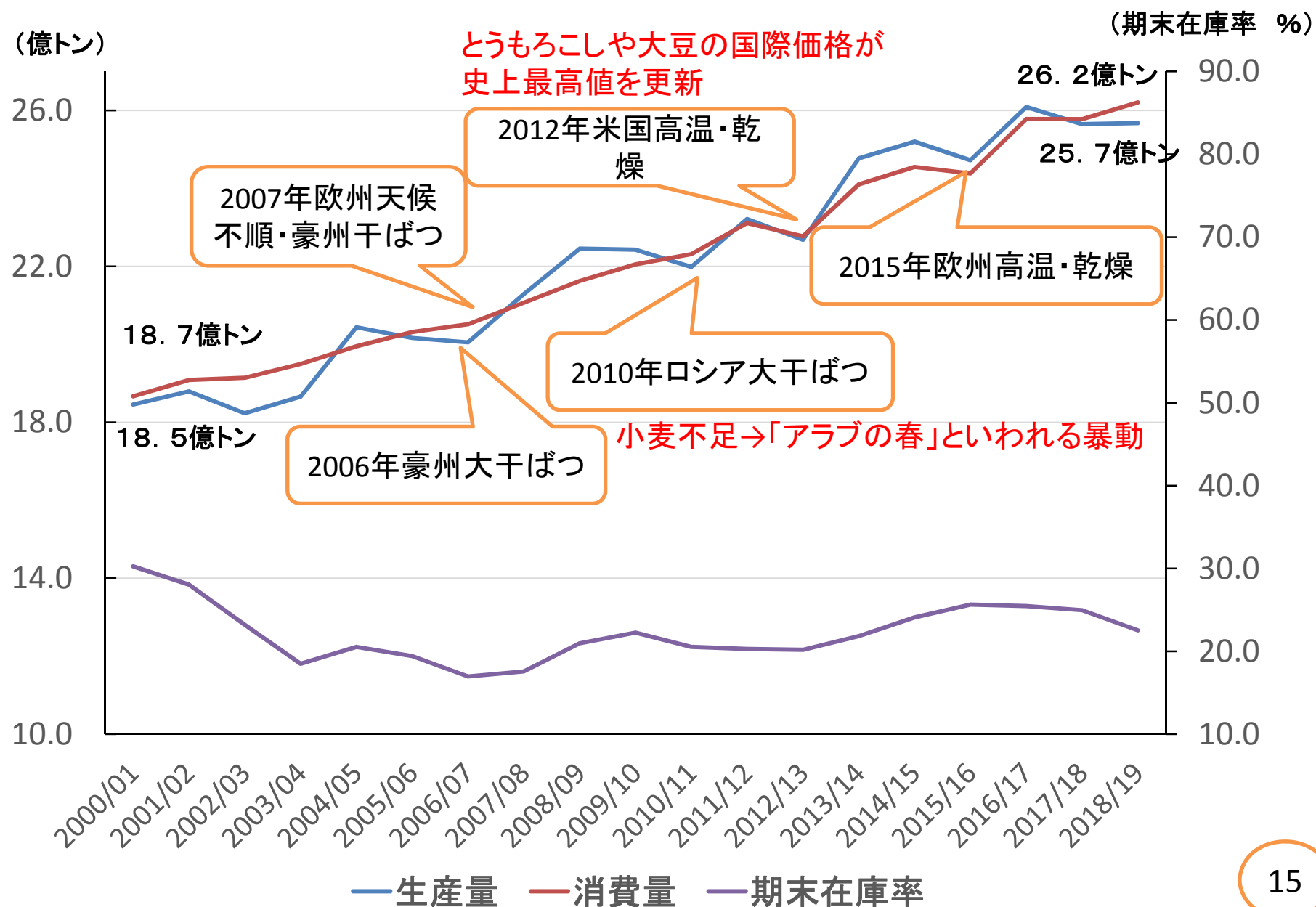
Key words

- 生活スタイルの変化（スーパーからネットへ）
- 簡便化志向（調理済み食品の拡大）
- 画一された食生活へ

わが国の酪農・畜産は大丈夫？

中国からの影響は？

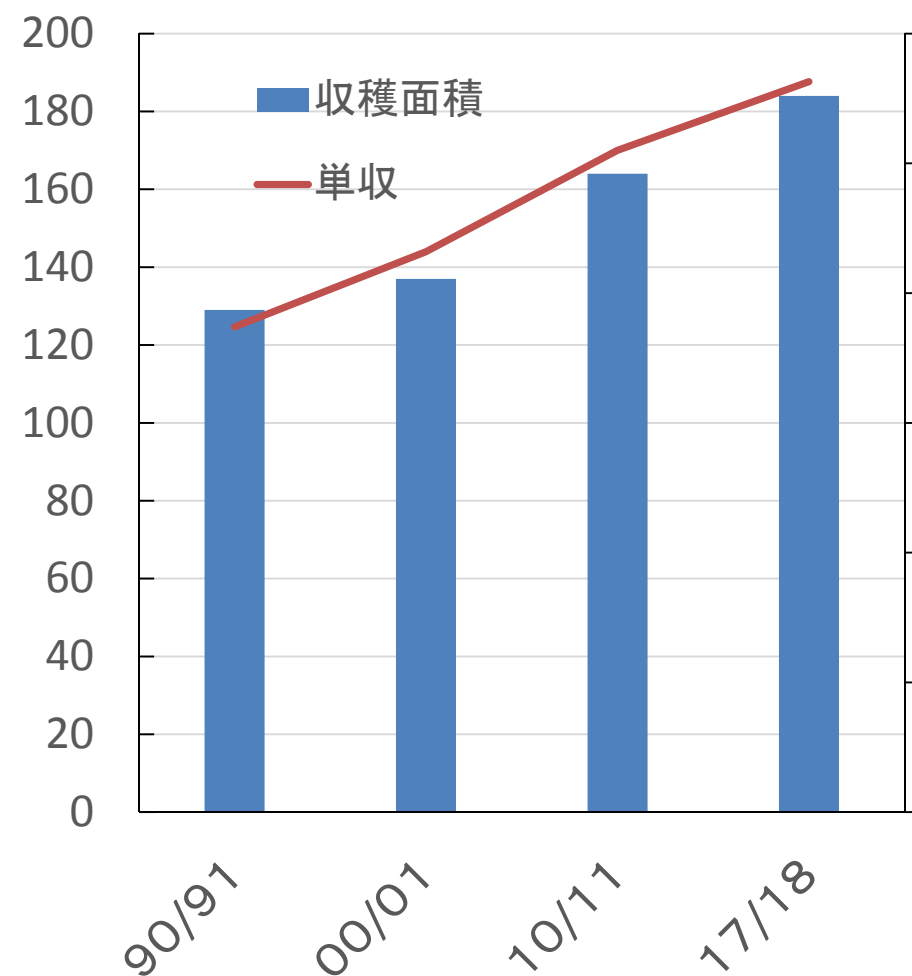
世界の穀物等の需給動向



穀物等の生産増

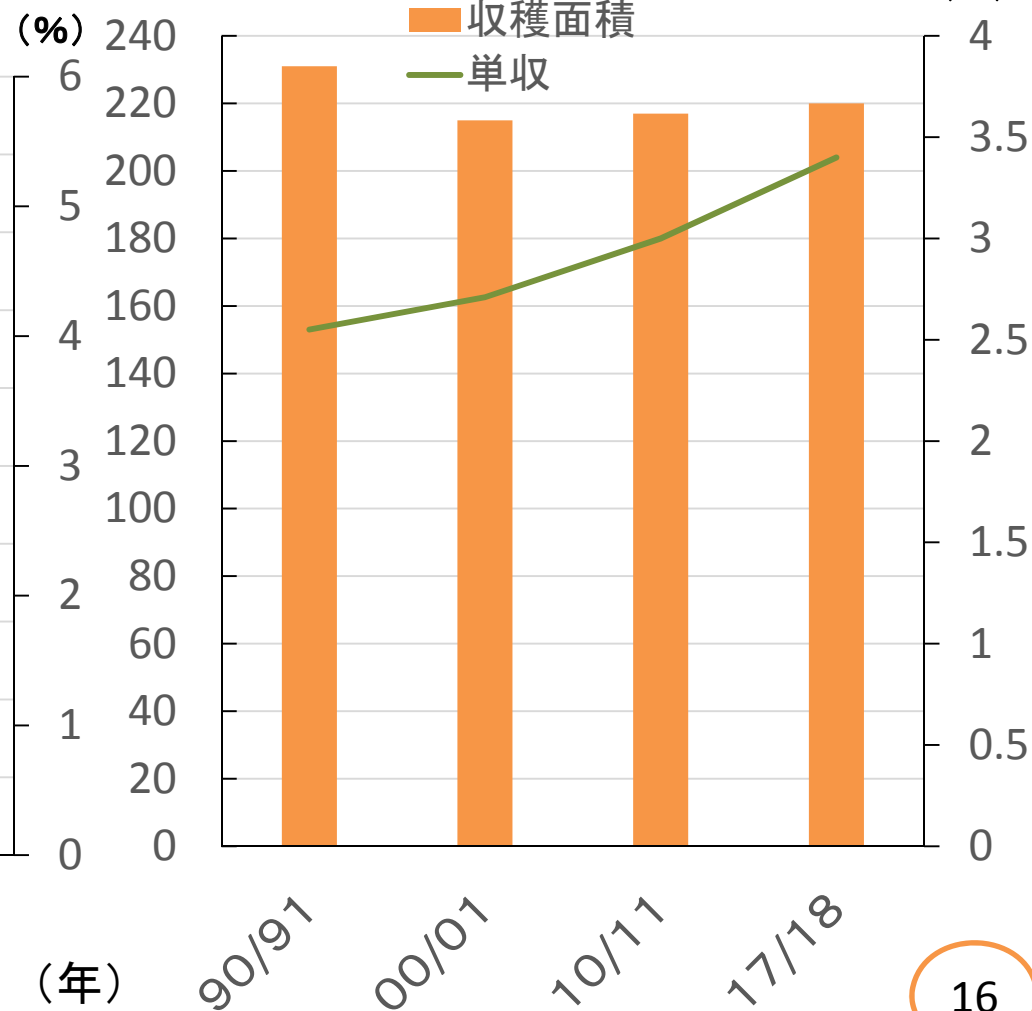
トウモロコシの収穫面積と単収

(収穫面積
100万ヘクタール)



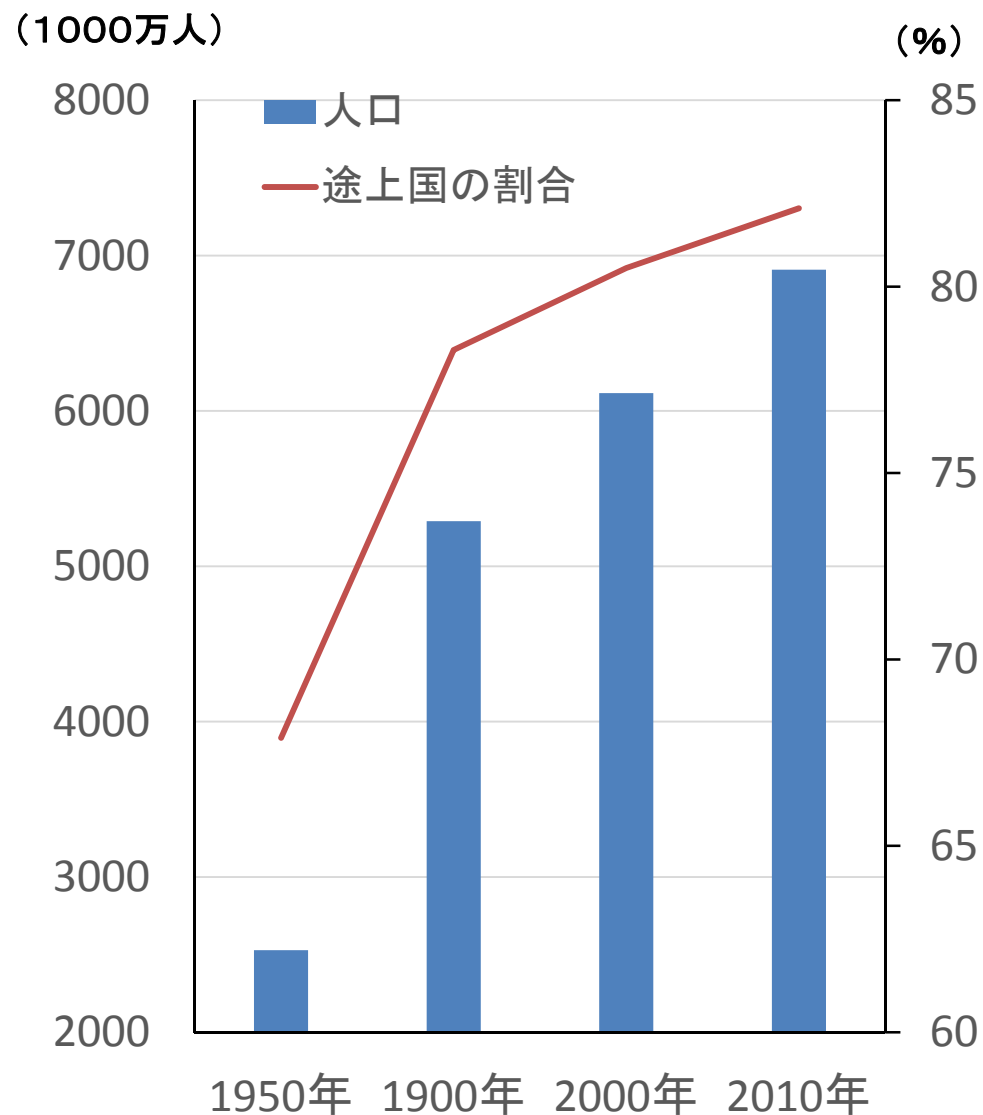
小麦の収穫面積と単収

(収穫面積
100万ヘクタール)

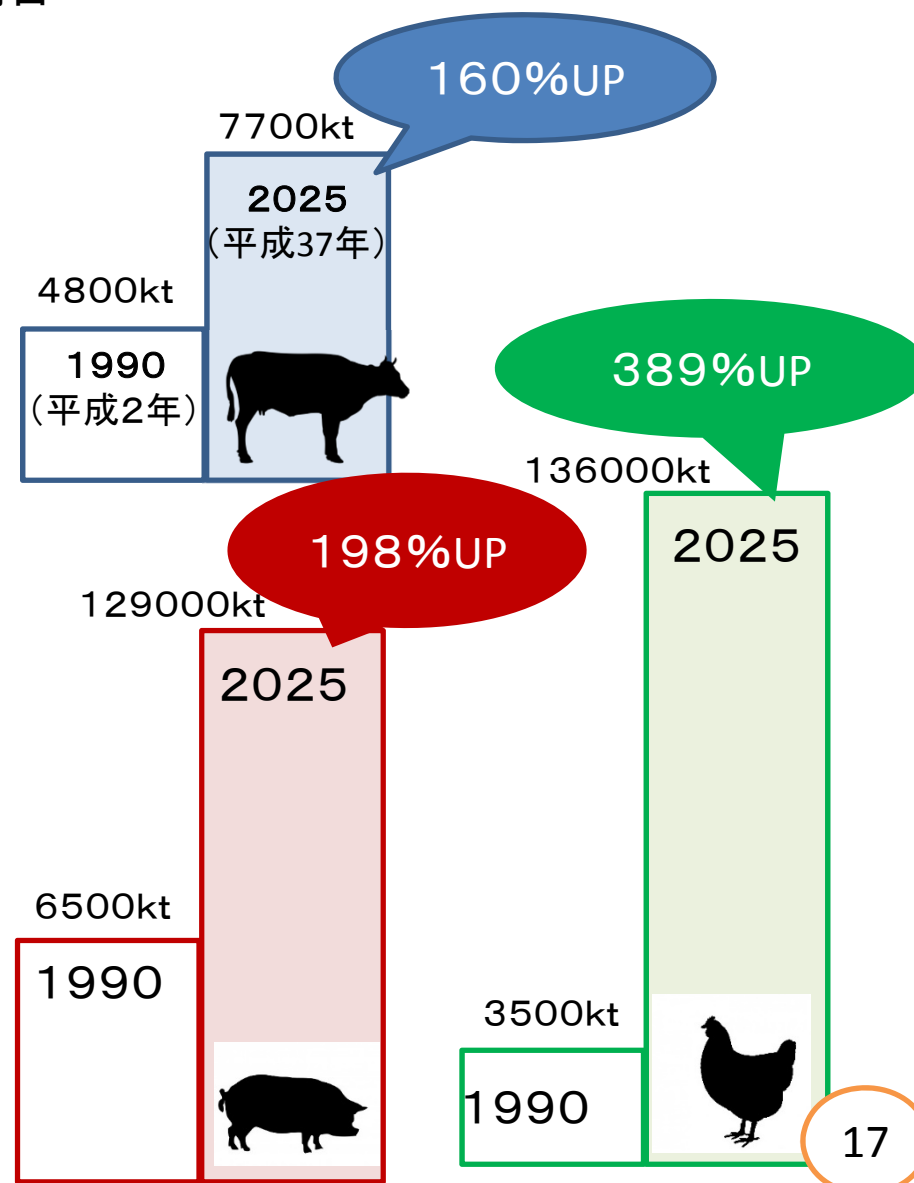


穀物等の需要増の要因

世界の人口増加の推移と途上国の占める割合



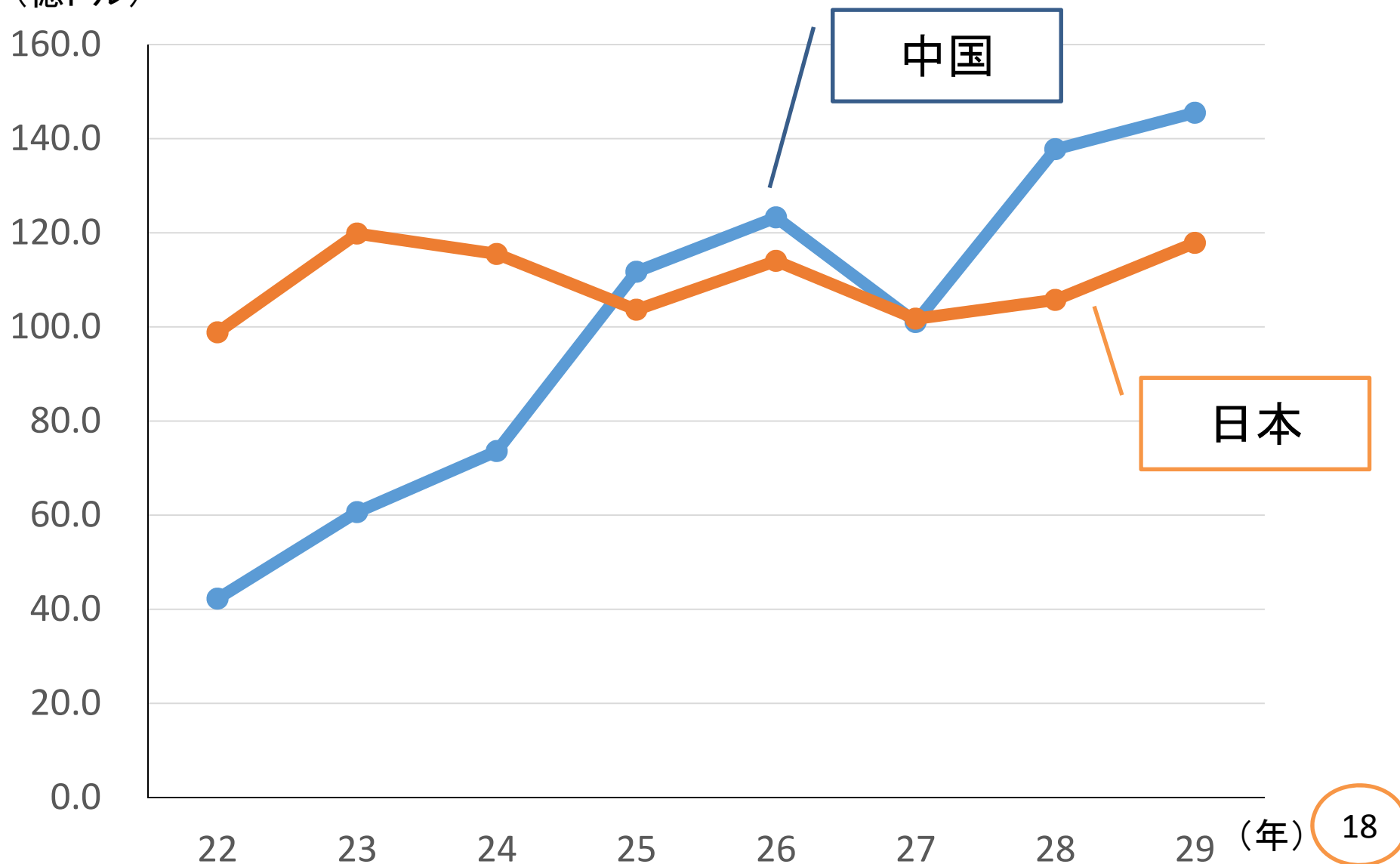
食肉需要の増加の伸び



穀物等の需要増の要因

中国と日本の畜産物（食肉・卵・乳製品等）の輸入額の推移

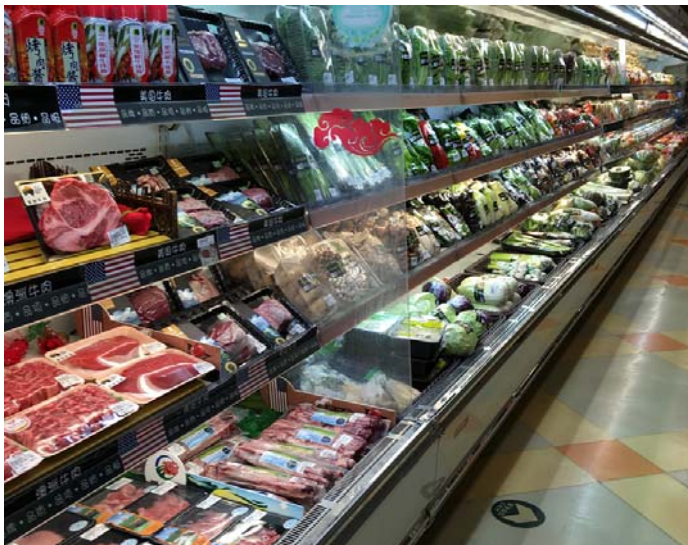
（億ドル）



中国・都市部の食品の販売状況

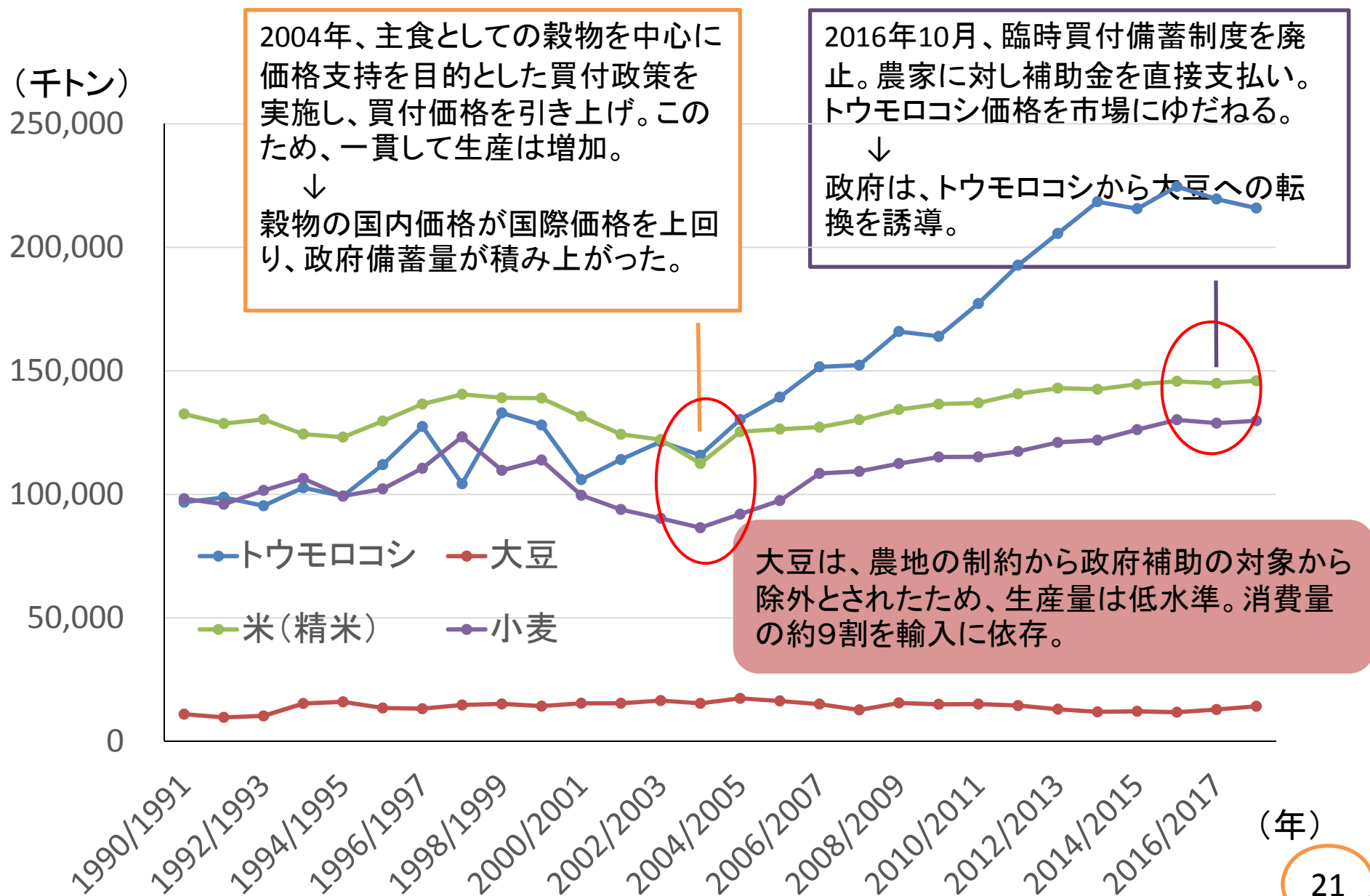


中国・都市部の食品の販売状況～日本と同じ？～

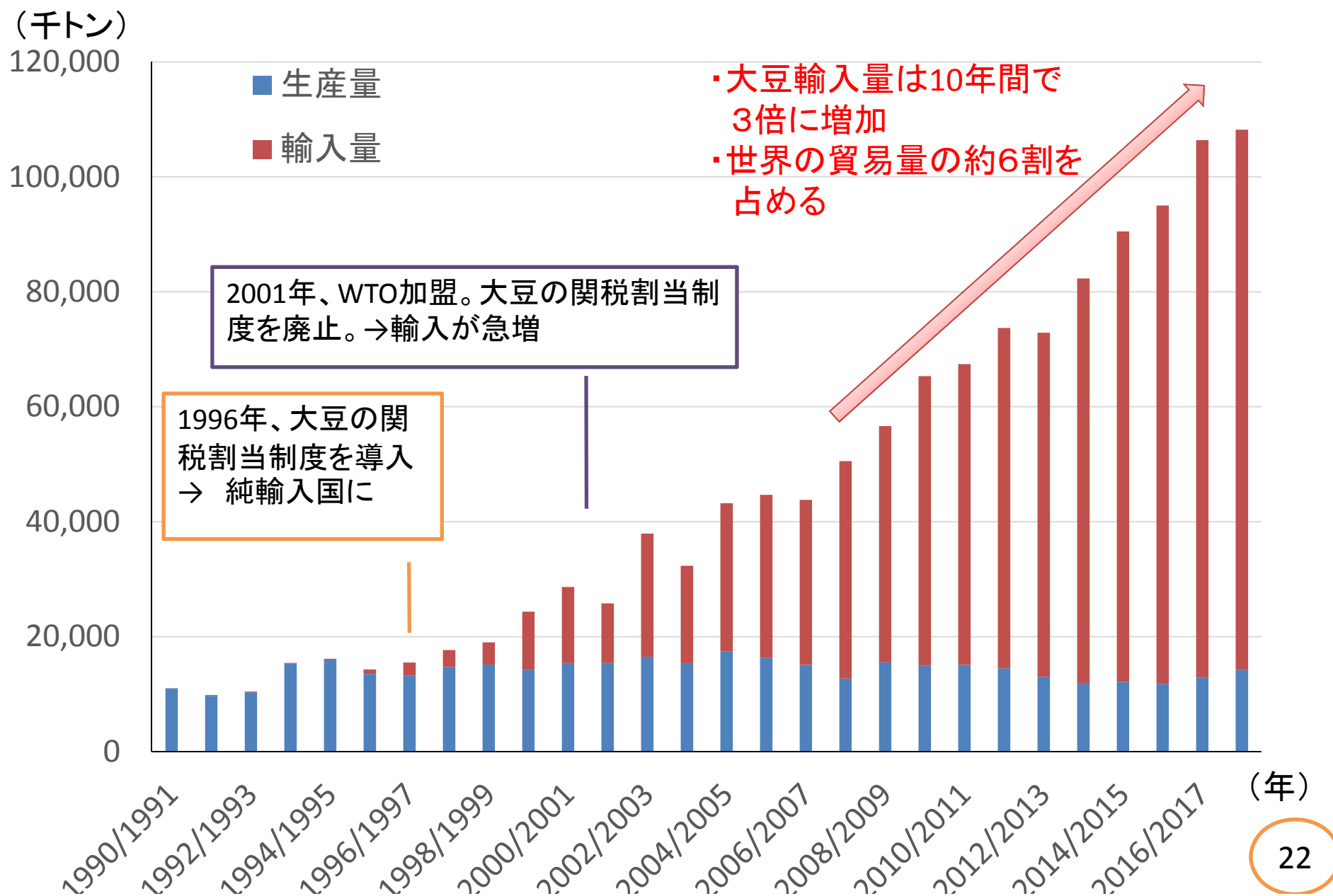


中国(生産量、消費量とも世界第1位)

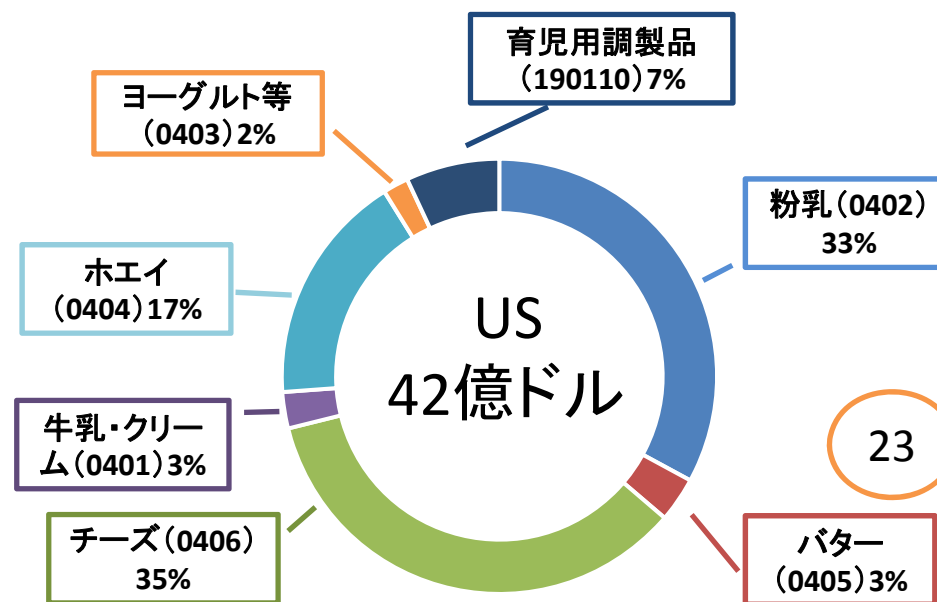
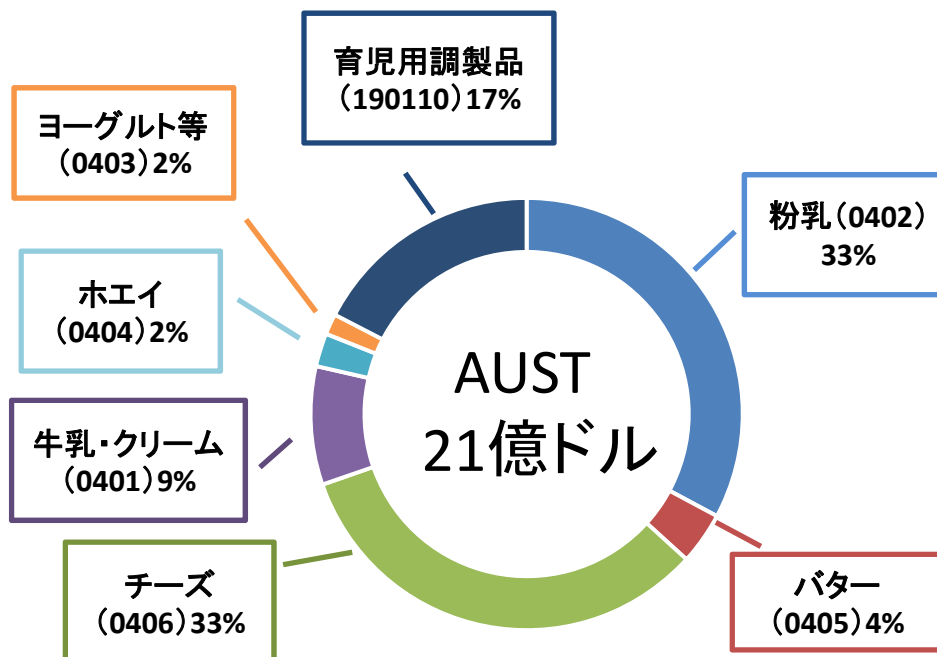
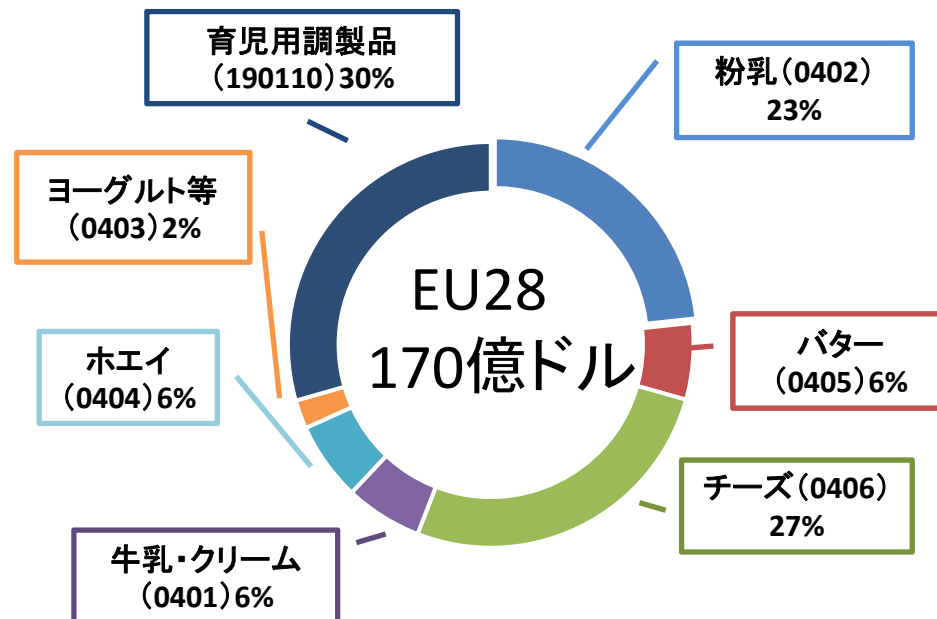
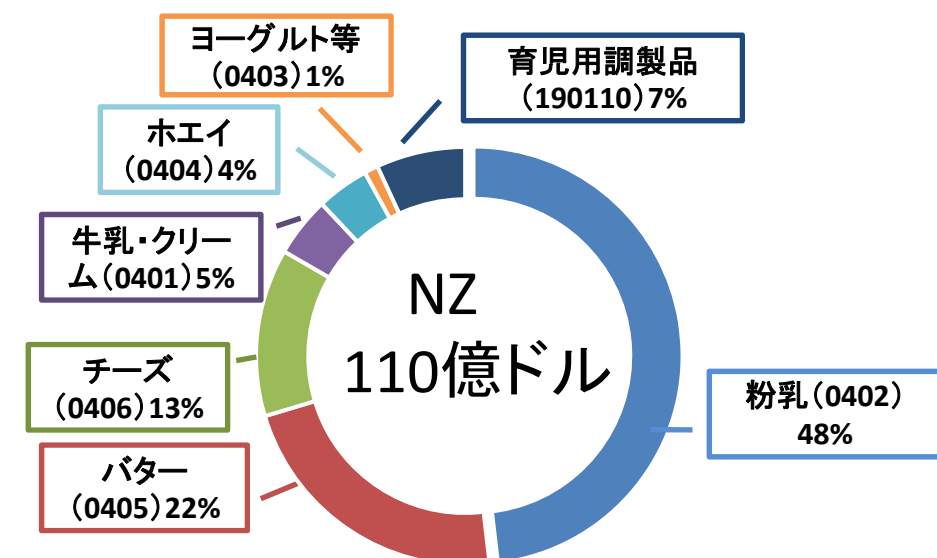
の主要穀物等の生産量の推移



中国の大豆生産と輸入の推移



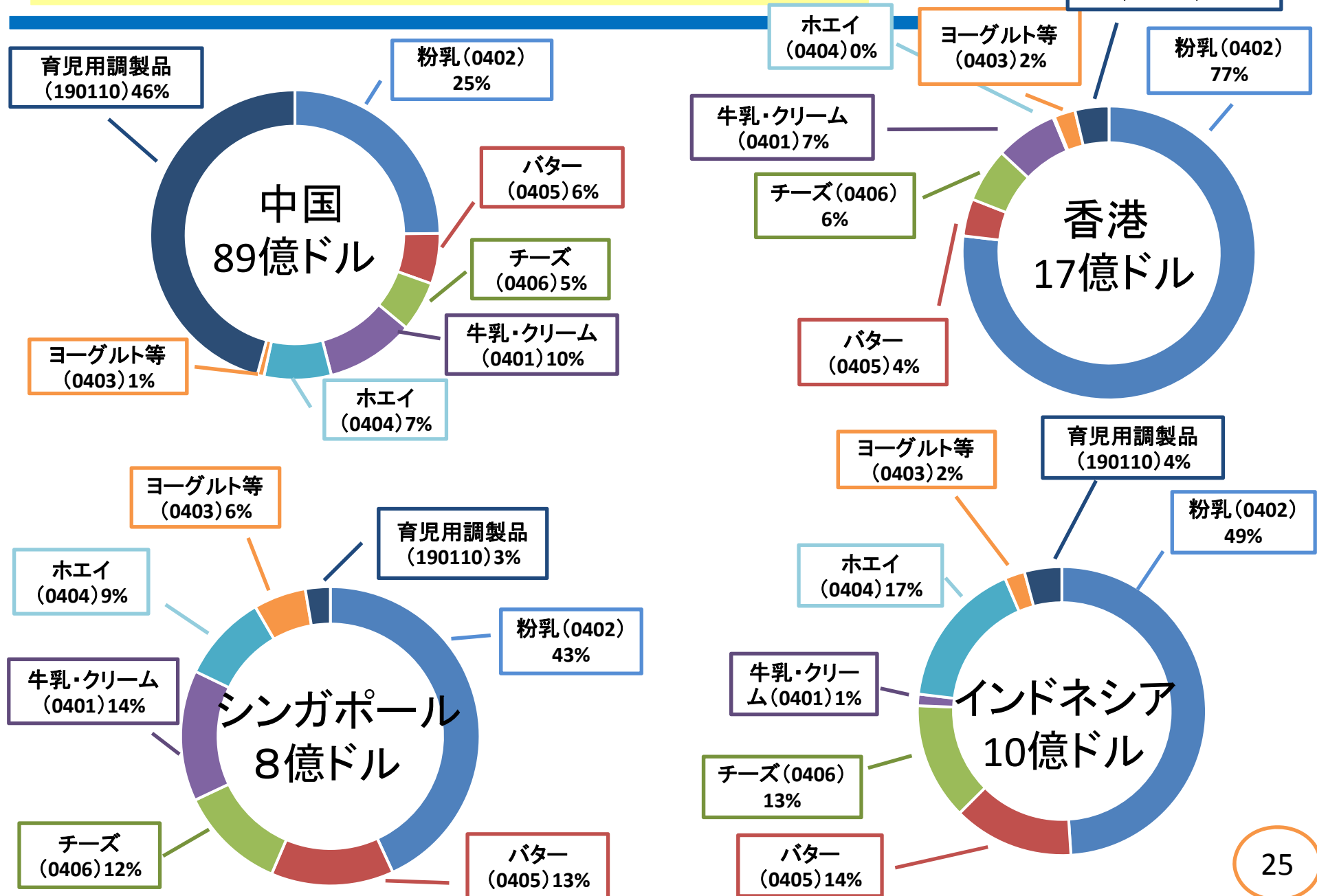
主要生産国の乳製品の輸出割合



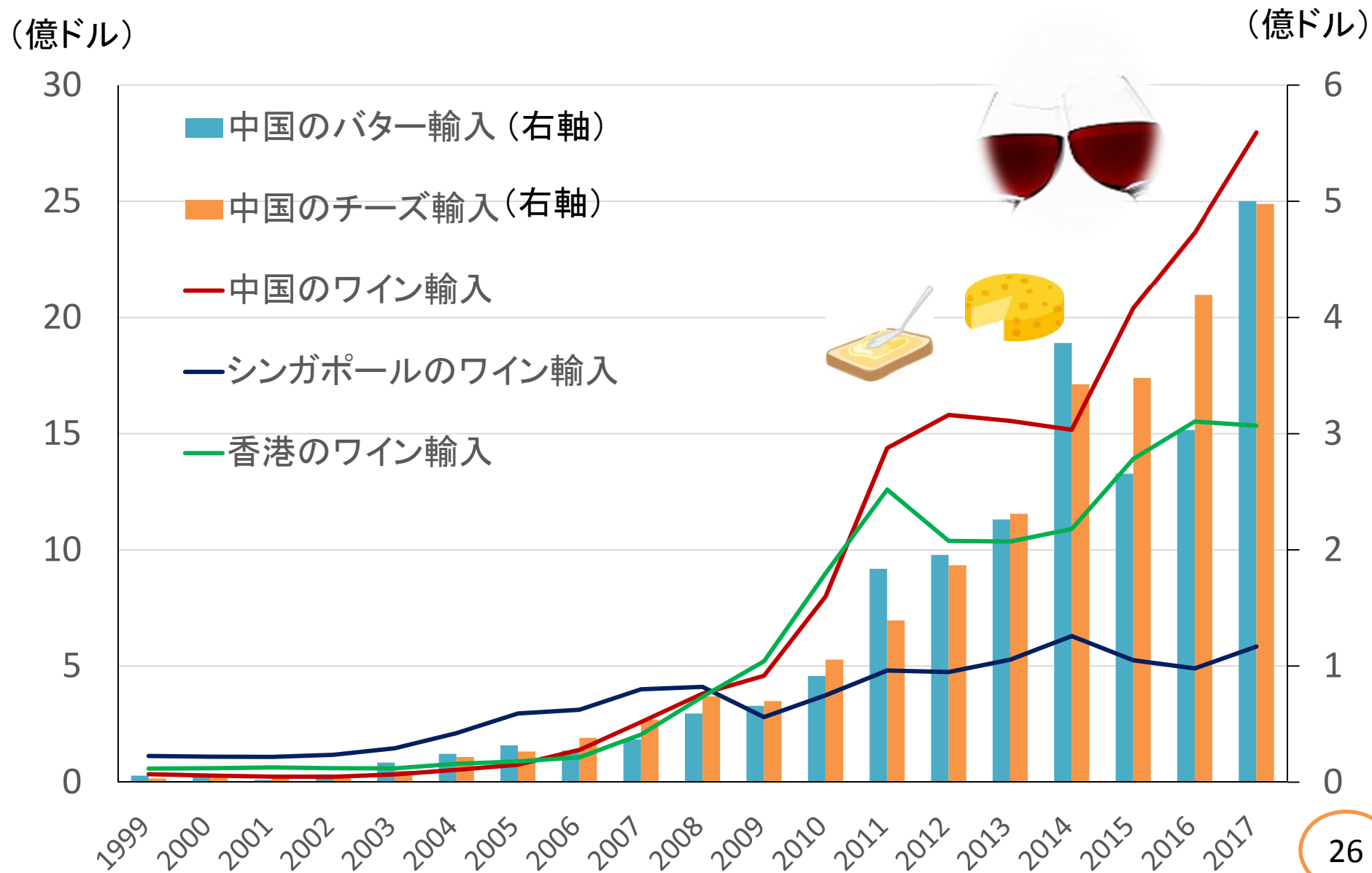
日本製品の輸出拡大には



アジアの乳製品の輸入割合



中国のワイン輸入額等の推移



アジア諸国の消費量の伸び(乳製品)

1990年から2020年の伸び

中国

○ 生鮮乳	5倍
○ バター	3倍
○ チーズ	3倍
○ 脱脂粉乳	20倍
○ 全脂粉乳	186倍

マレーシア

○ 生鮮乳	2倍
○ バター	2倍
○ チーズ	13倍
○ 脱脂粉乳	2倍
○ 全脂粉乳	0.4倍

インドネシア

○ 生鮮乳	1倍
○ バター	7倍
○ チーズ	8倍
○ 脱脂粉乳	16倍
○ 全脂粉乳	44倍

ベトナム

○ 生鮮乳	12倍
○ バター	9倍
○ チーズ	5倍
○ 脱脂粉乳	17倍
○ 全脂粉乳	56倍

オーストラリアを基点とした生体牛輸出

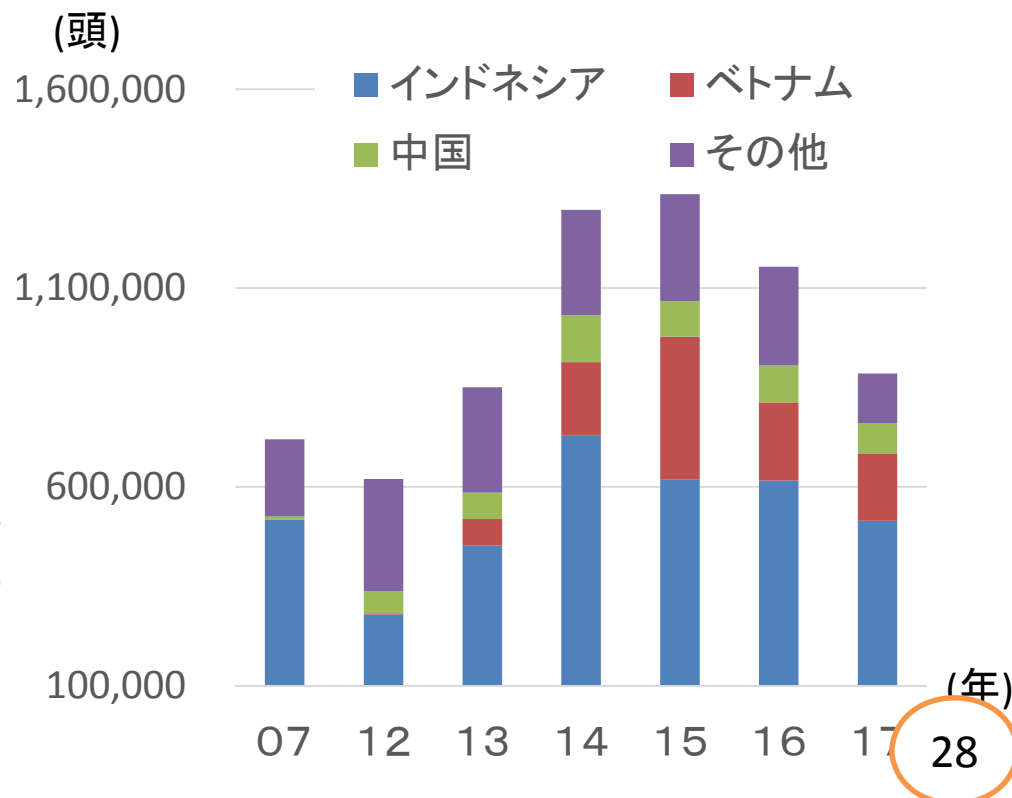
- ・ オーストラリアを基点として、アジア向けに生体牛輸出が進展。
- ・ オーストラリアの輸出国先は、牛肉消費が進むインドネシアが主体。ベトナムや中国向けも活発。特に中国向けは10年間で9倍近い伸び。中国では肉牛生産に制約(飼料調達に難あり)があることから、今後もオーストラリアからの輸入が拡大する見込み。

と畜直行牛が主体

オーストラリアからの生体牛の主要積出港



オーストラリアからの生体牛の輸出頭数の推移



オーストラリアを基点とした生体牛輸出

インドネシア向け

- ・主な品種 ブラーマン
- ・用途 肥育もと牛
- ・輸出頭数(17年実績) 51万頭

インドネシア政府は、牛肉の自給率向上を掲げているため、輸入許可頭数の設定(現在廃止)、体重制限、繁殖雌牛とのコンビネーション輸入の義務付けなど、輸出の伸びに制約要素はあるものの、オーストラリアの生体牛に依存している実態には変化はなく、輸出水準の変化は見込めない。

オーストラリアからの生体牛の調達の背景

東南アジア諸国が抱える①飼料穀物の自給率の低さ、②繁殖技術の未熟さ、③疾病の発生など課題があり、肉牛増産は難しいことがある。

ベトナム向け

- ・主な品種 ブラーマン
- ・用途 ブラーマン×アングス
と畜直行牛
- ・輸出頭数(17年実績) 17万頭

ベトナムは13年以降、オーストラリアからの輸入を本格化。ベトナム向けは、重量の重いと畜直行牛のため、インドネシア向けとは異なる。



ブラーマン種は、インド原産で、暑さに強く、ダニ熱耐性があり、オーストラリア北部で飼養されている。

オーストラリアを基点とした生体牛輸出

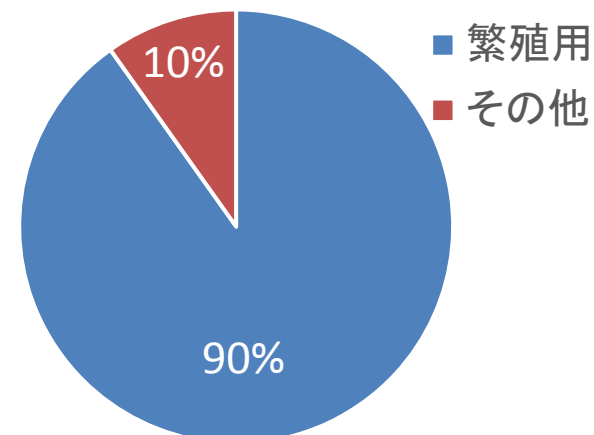
中国向け

- ・品種
乳用牛(90%)
交雑種(10%)
- ・用途
繁殖用(乳用牛)
と畜直行牛
(生体重550キロのもの)
- ・輸出頭数(17年実績) 7.6万頭

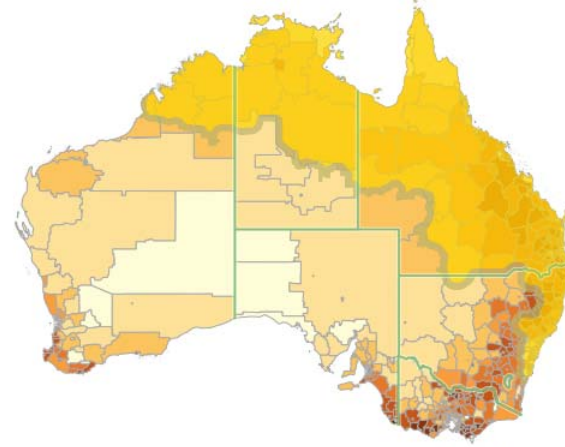
15年7月、オーストラリア政府は中国向けの肉用牛の輸出条件を締結。オーストラリアは、今後、年間100万頭の輸出(全体では900万頭の輸出)を見込む。

アジア向けの輸出港のあるクイーンズランド州など北部はブルータングの流行地域であり、中国政府は輸出条件にトレーサビリティの義務付けも。

オーストラリアから中国向け用途別割合(17年)



ブルータング発生地域



濃い黄色が流行地域
赤色は牛の密度濃いほど密度が高い

オーストラリアを基点とした生体牛輸出

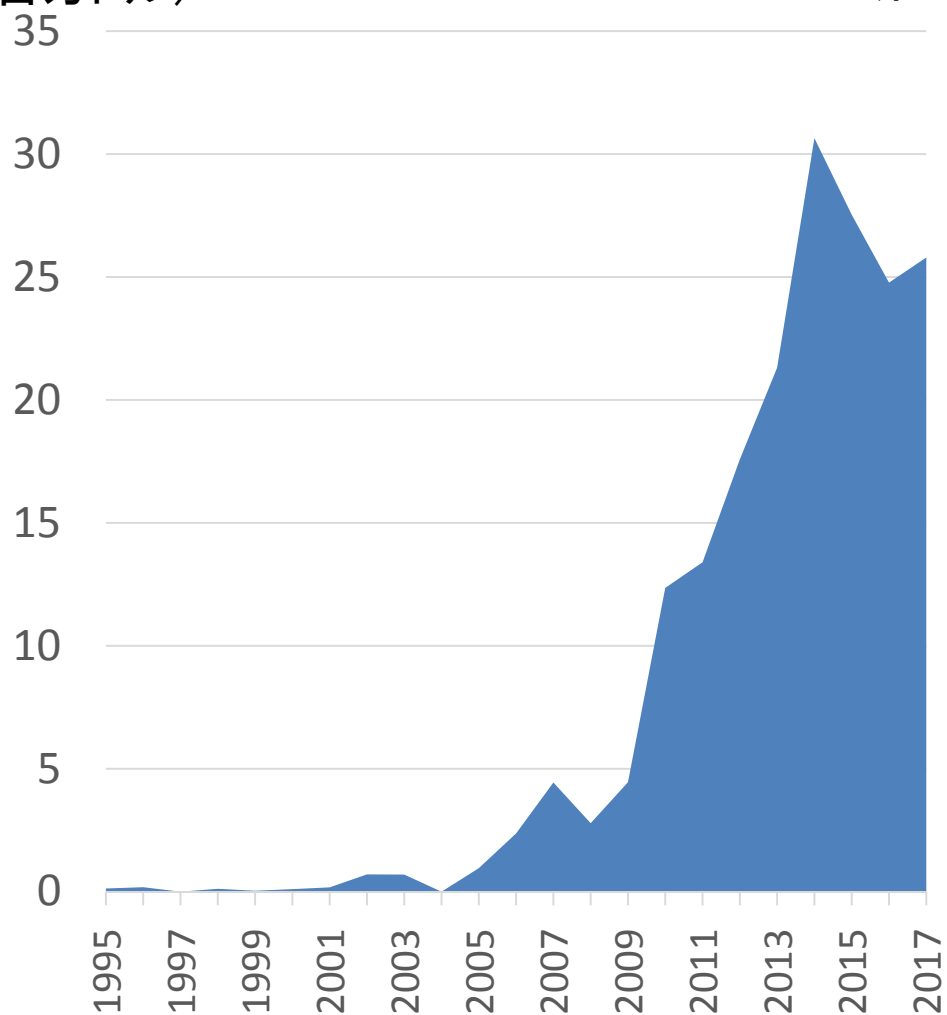


写真はABCNews(<http://www.abc.net.au/>)から引用

中国の精液・受精卵の輸入額の推移

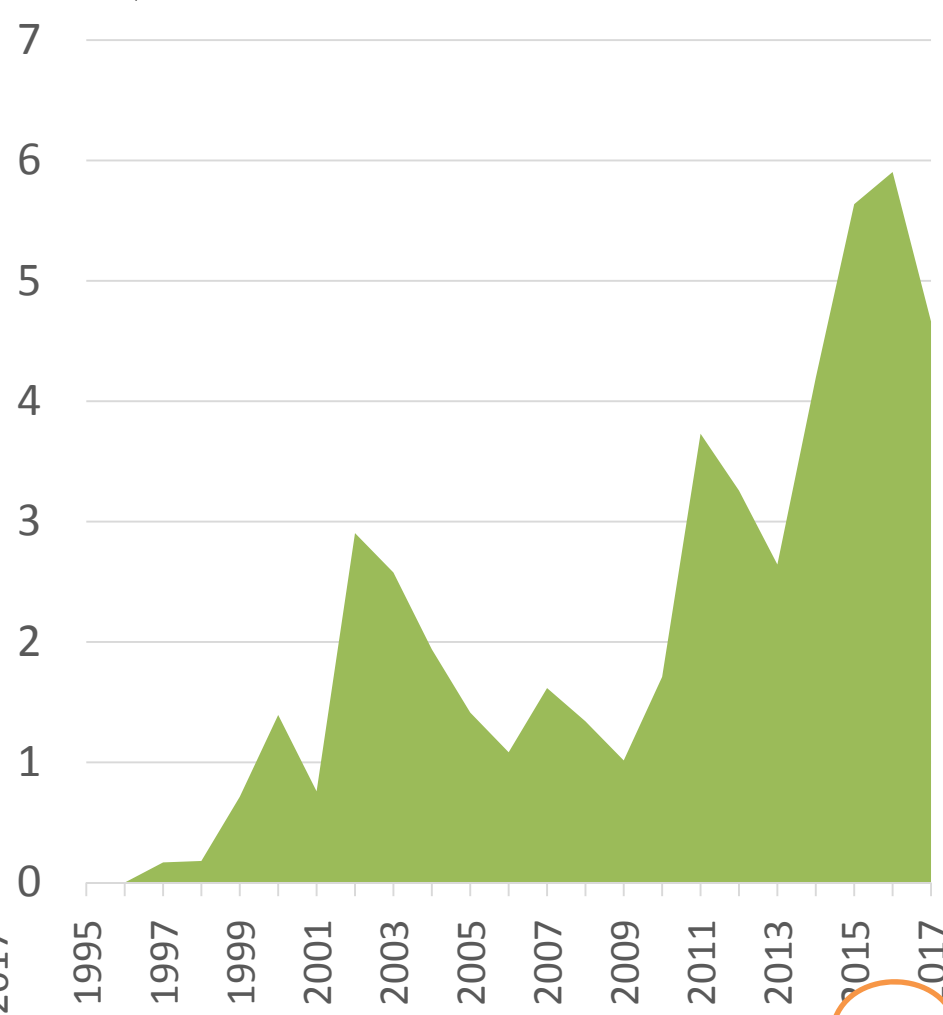
中国の牛精液の輸入額の推移

(百万ドル)

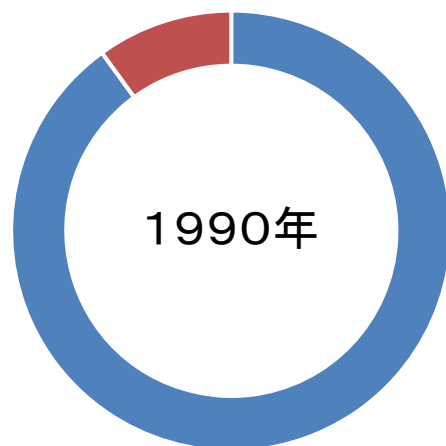


中国の受精卵の輸入額の推移

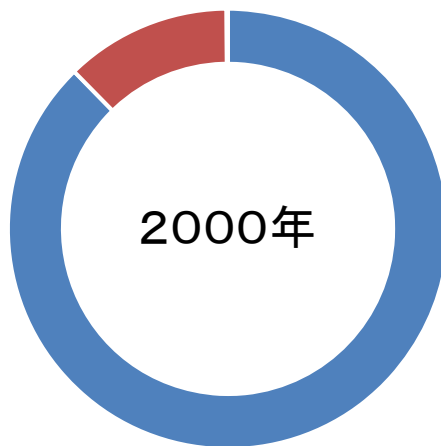
(百万ドル)



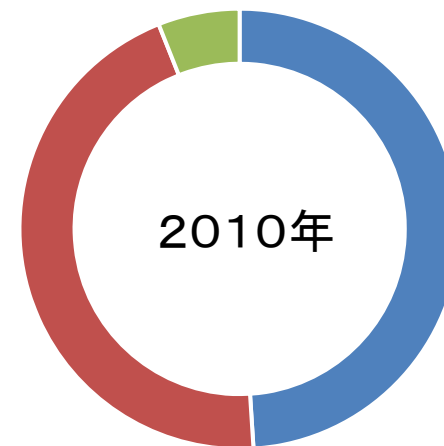
米国産粗飼料の輸出仕向け先の状況



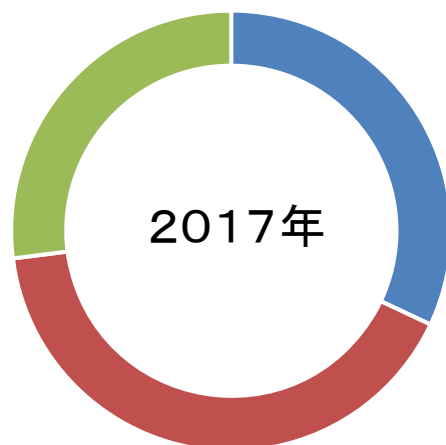
■ 日本 ■ その他



■ 日本 ■ その他 ■ 中国

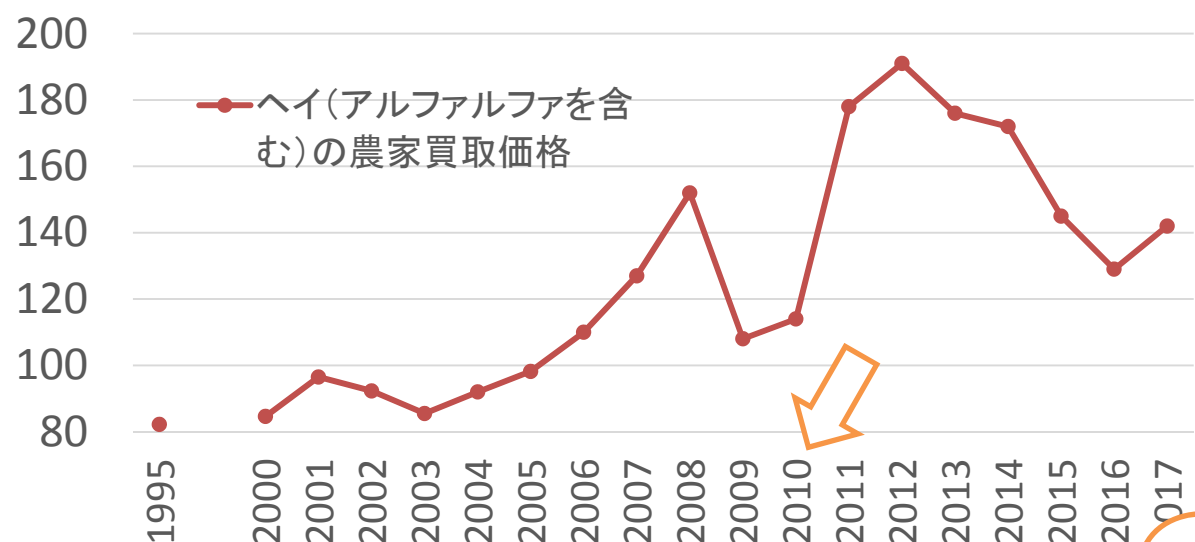


■ 日本 ■ その他 ■ 中国



■ 日本 ■ その他 ■ 中国

(トン/ドル) 米国における粗飼料の農家買取価格



わが国の飼養戸数と飼養動向の推移と離農

区 分 / 年		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
乳用牛飼養戸数(千戸)		23.1	21.9	21.0	20.1	19.4	18.6	17.7	17.0	16.4	15.7
(対前年増減率)(%)		(▲5.3)	(▲5.2)	(▲4.1)	(▲4.3)	(▲3.5)	(▲4.1)	(▲4.8)	(▲4.0)	(▲3.5)	(▲4.3)
	うち成畜50頭以上層(千戸)	7.8	7.3	7.1	7.0	6.9	6.8	6.4	6.5	6.4	6.2
	戸数シェア(%)	(34.1)	(33.7)	(34.1)	(34.9)	(35.9)	(37.3)	(36.9)	(38.9)	(39.6)	(40.3)
乳用牛飼養頭数(千頭)		1,500	1,484	1,467	1,449	1,423	1,395	1,371	1,345	1,323	1,328
(対前年増減率)(%)		(▲2.2)	(▲1.1)	(▲1.1)	(▲1.2)	(▲1.8)	(▲2.0)	(▲1.7)	(▲1.9)	(▲1.6)	(0.4)
	うち 経産牛頭数(千頭)	985	964	933	943	923	893	870	871	852	847
	うち 未経産牛 (乳用後継牛)頭数(千頭)	515	521	534	506	500	501	502	474	471	481
	うち成畜50頭以上層(千頭)	986	983	987	980	944	948	940	949	934	961
	頭数シェア(%)	(66.7)	(67.3)	(68.5)	(68.9)	(67.8)	(69.7)	(70.4)	(72.5)	(72.6)	(74.3)
一 戸 当 た り 経産牛頭数(頭)	全 国	42.6	44.0	44.4	46.9	47.6	48.0	49.1	51.2	52.0	54.0
	北海道	62.4	63.6	63.9	68.1	68.1	68.2	68.8	72.6	72.8	75.2
	都府県	32.5	33.2	33.6	34.9	35.9	36.2	37.2	38.1	38.9	40.4
経産牛一頭当たり 乳量(kg)	全 国	8,088	8,047	8,034	8,154	8,198	8,316	8,511	8,522	8,581	—
	北海道	8,027	8,046	7,988	8,017	8,056	8,216	8,382	8,369	8,504	—

資料:資料:農林水産省「畜産統計」(30年は速報値。),「牛乳乳製品統計」(北海道の26年から29年は速報値。)

注:各年とも2月1日現在の数値。

ただし、経産牛一頭当たり乳量は年度の数値。

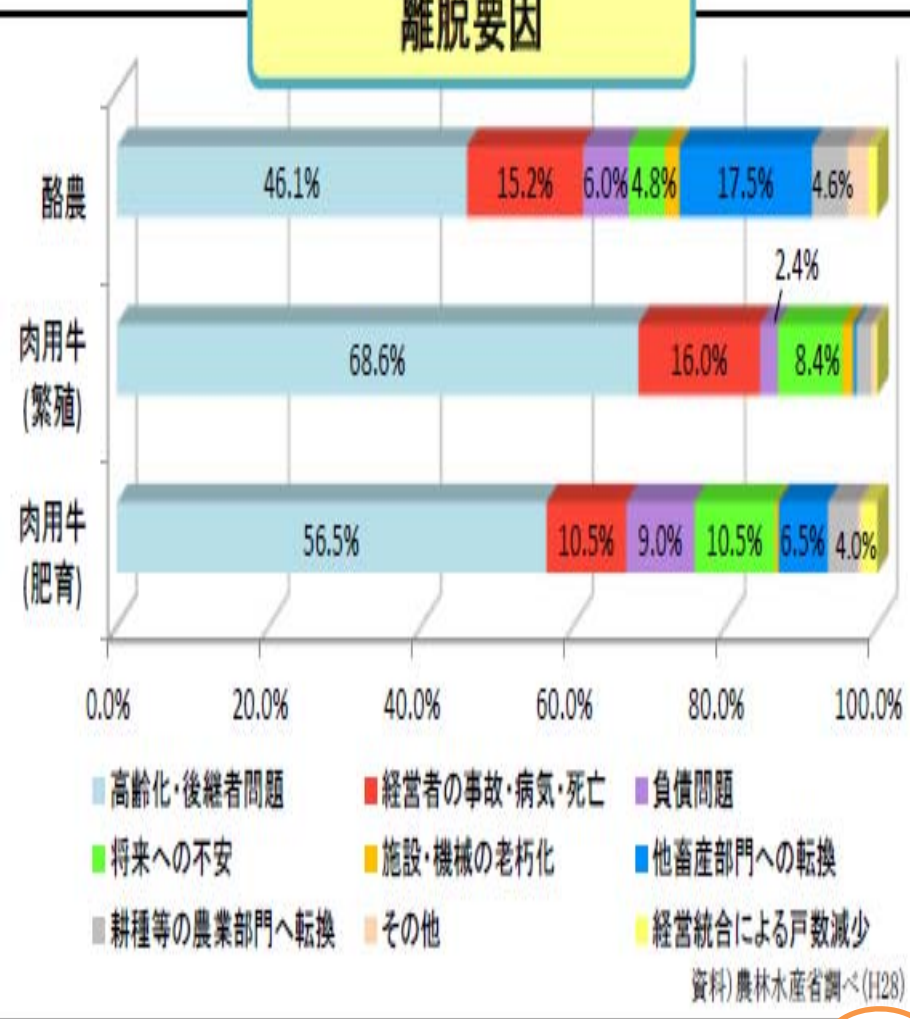
わが国の飼養戸数と飼養動向の推移

経営離脱・新規就農状況

			H26	H27	H28
酪農	全国	離脱者数	746	661	584
		新規就農者数 (うち新規参入者)	188 (23)	197 (23)	207 (37)
	うち北海道	離脱者数	211	200	185
		新規就農者数 (うち新規参入者)	104 (16)	110 (16)	131 (30)
	肉用牛	離脱者数	2,512	1,924	1,626
		新規就農者数 (うち新規参入者)	277 (89)	229 (38)	289 (63)
肉用牛	うち九州・沖縄	離脱者数	1,436	1,141	907
		新規就農者数 (うち新規参入者)	176 (73)	128 (18)	159 (33)

資料)農林水産省調べ

離脱要因



酪農の課題解決に向けて

課題

- 飼料の安価かつ安定的な調達
- 担い手確保

課題に向けた取組

- 飼料生産の安定化 海外産に高依存は危険
 - ☆ 国産のエサ作り
- 魅力ある産業への転換
 - ☆ 働き方改革 省力の推進 酪農ヘルパー 協業化
 - ☆ 生産者の創意工夫による高付加価値製品の創出



Thank you

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは責任を負いません。なお、この資料は、ALICの公式の見解を示したものではありません。